

令和 7 年 2 月の解説（府県天気予報）

【2 月の天候状況】

上旬は、期間の前半に本州南岸と日本海付近を低気圧が通過し、その後は強い冬型の気圧配置となり、東・西日本と沖縄・奄美を中心に寒気が流れ込みやすい状態が期間末まで続いた。発達した低気圧の影響で、帯広で 4 日に 104cm の日降雪量を観測し、1953 年の統計開始以降で最も多くなるなど、北海道の太平洋側で記録的な大雪となった所があった。また、7 日から 8 日にかけては、強い冬型の気圧配置の影響により、東日本日本海側を中心に記録的な大雪となった所もあった。このため、旬平均気温は西日本でかなり低く、旬降水量は北・東日本日本海側と北日本太平洋側でかなり多く、旬降雪量は北日本太平洋側と東・西日本日本海側でかなり多かった。また、旬間日照時間は、西日本日本海側でかなり少なかった。中旬は、期間の中頃まで、東・西日本を中心に冬型の気圧配置が長続きせず、高気圧に覆われやすかった。このため、旬降水量は、北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側で少なく、旬間日照時間は、北日本太平洋側と西日本日本海側でかなり多く、東日本日本海側と東・西日本太平洋側で多かった。北日本日本海側では冬型の気圧配置となる時期や低気圧の影響を受けた時期があり、旬降水量は多かった。旬平均気温は、寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込んだ時期があった北日本で高かった。期間の終わりには冬型の気圧配置が強まり、北・東・西日本日本海側を中心に大雪となった所があり、強い寒気が流れ込んだ西日本では旬平均気温が低かった。

下旬は、中旬の終わってから下旬の前半にかけて、日本付近では強い冬型の気圧配置が続き、東・西日本と沖縄・奄美を中心に強い寒気が流れ込んだ。このため、22 日に輪島で 6 時間降雪量の日最大値が 27cm と 1997 年以降で 2 月として最も多くなるなど、北・東・西日本日本海側を中心に大雪となった所があった。また、24 日には西日本太平洋側の平野部でも積雪を観測した。その後は、冬型の気圧配置が緩み、東・西日本を中心に高気圧に覆われやすく、北日本には低気圧に向かって暖かい空気が流れ込んだ日もあった。これらのことから、旬平均気温は、東・西日本と沖縄・奄美で低かった一方、北日本では高かった。旬降雪量は東・西日本日本海側でかなり多かった。また、旬降水量は、北・東・西日本太平洋側と西日本日本海側でかなり少なく、東日本太平洋側では平年比 1%と 1946 年の統計開始以降で 2 月下旬として 1 位の少雨となった。旬間日照時間は、北・東・西日本太平洋側でかなり多かった。

【2 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 1 ポイント低い 84%で、明後日予報は例年値と同じ 83%となった。地方別の適中率では明日予報は北海道、東海、近畿、中国、四国、九州北部地方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値を上回った。また明後日予報は北海道、東海、近畿、四国、九州北部地

方では例年値を下回ったが、その他の地方では例年値と同じか例年値を上回った。

同じく 17 時発表の天気予報による明日の最高気温の予報誤差は、全国平均で例年値より 0.1℃小さい 1.2℃で、中国、九州南部、沖縄地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。また、最低気温の予報誤差は、全国平均で例年値と同じ 1.3℃で、関東甲信、九州北部地方では例年値より大きくなったが、その他の地方では例年値と同じか例年値より小さくなった。

(注) 例年値は 2015 年～2024 年の平均値です。

【4 月の天気予報の利用にあたって】

4 月は、移動性高気圧に覆われた穏やかな日が多くなりますが、低気圧が発達しながら日本付近を通過して、雨や風が強まって荒れた天気になることもあります。災害をもたらすような荒天が予想される場合は、各地の気象台が発表する最新の警報や注意報、早期注意情報、気象情報に留意して下さい。